

13. ワシントン大学との交流

13.1 はじめに

本学は、ワシントン大学との学術協定のもと、隔年ごとにワシントン大学への教員派遣と招聘教授による大学院生への国際看護特論の講義を実施している。平成24年には上月頼子准教授を招聘し大学院国際看護特論の講義、一般公開講義、教員対象講義教員との懇談会等を行った。平成25年度は本学教員（彦）が Visiting Scholar として Noel・J・Chrisman 教授のもとで CBPR(Community-Based Participatory Research)、SHG (Self Help Group) のネットワーク化、活動の評価について学ぶことを目的に研修を行なった。

13.2 概要

- 1) 研修期間：平成26年2月28日（金）～3月26日（水）
- 2) 派遣教員 Visiting Scholar：彦聖美 准教授（在宅看護学）
- 3) 研修先：ワシントン大学看護学部
- 4) 受け入れ教授：Noel・J・Chrisman 教授（Psychosocial&Community Health：医療人類学、コミュニティ看護学）

13.3 研修目的

- 1) CBPR(Community-Based Participatory Research)活動の実際を学び、エビデンスに基づいた男性家族介護者に対する支援プログラムの開発に向けた示唆を得る。
- 2) 米国における SHG (Self Help Group) 活動及び家族介護者支援についての知見を得て、家族介護者に対する支援、SHG のネットワーク化、実践活動に関する評価手法を学ぶ。

13.4 研修内容

- 1) オリエンテーション・図書館ツアーへの参加
- 2) Visiting Scholar Required Check-In (J1 ビザプログラム) への参加
- 3) CBPR(Community-Based Participatory Research)プログラムへの参加
1995年より開始した Chrisman 教授らの CBPR プログラムである「South Park Community Partnership」活動への参加
- 4) 「South Park Community Partnership」プログラムに参加している大学院生のゼミへの参加
- 5) 大学院生による地域看護活動報告会（ポスター発表）への参加
- 6) 認知症家族支援プログラムの Reserch Profeser である S.M.McCurry 氏との面談・意見交換
- 7) Global Oncology Lecture Series (Fred Hutchinson Cancer Research Center) への参加（講演の聴講）
 - ①A.Dvaladze (MPH) 氏: Living with Breast Cancer; Experiences and Perceptions of Women in Georgia.
 - ②F.M.Lewis(PhD)氏: Evidence-based Training Modules for Russian Oncology Nurses and Medical Faculty.